



### 磐梯山噴火

- ・1888年7月15日、山頂北側の小磐梯が大噴火。北側山体が大崩壊をおこし、それによる泥流が麓の3集落を埋積。死者・行方不明500。
- ・せき止められた小河川は数ヶ月間増水を続けて、多くの潮水群を生成。埋没を免れた集落も移転を余儀なくされる。
- ・1887、郡山まで鉄道が開通。それを利用して設立まもない新聞社が記者を派遣。初めての大ニュースを全国に報道。
- ・お雇い外国人科学者たちも関心を寄せ、画家を伴ってこぞって磐梯へ。世界へ発表。
- ・天皇は噴火2日後、被災住民に対して義援金2000円の下賜を決定。
- ・翌年の帝国憲法の公布を控えて、天皇を元首とする新「帝国」の姿を、先んじて現実化。
- ・「朝敵」会津を、同じ「国民」として統合する象徴的意味も。

⇒ 磐梯山は、「東北」というより、近代日本としての国民的統合のシンボルに

### 明治三陸津波

- ・1896(明29)年6月15日、19時半発生したM8.5の大地震の30分後、岩手県～宮城県北沿岸を中心に襲来。最大水位38m
- ・死者21,915、流失家屋9,878。
- ・この大災害は、草創期の新聞で全国に報じられたほか、お雇い外国人や宣教師を通してNational Geographicで世界に紹介。
- ・それまで「北上川流域」地域をさしていた行政地名「三陸」が、沿岸地域の呼称として定着するきっかけに。
- ・救援に入った赤十字の社員を悩ませたのが、意志疎通困難な方言と、援助を拒む迷信が悩ませる。
- ・現地の悲惨な状況とあわせて、希望とともに定着したばかりの「東北」に、再び異境的イメージを含ませることに。

津波防災景観 -田老の防潮堤-